

三月市議会定例会

支所の廃止条例を否決

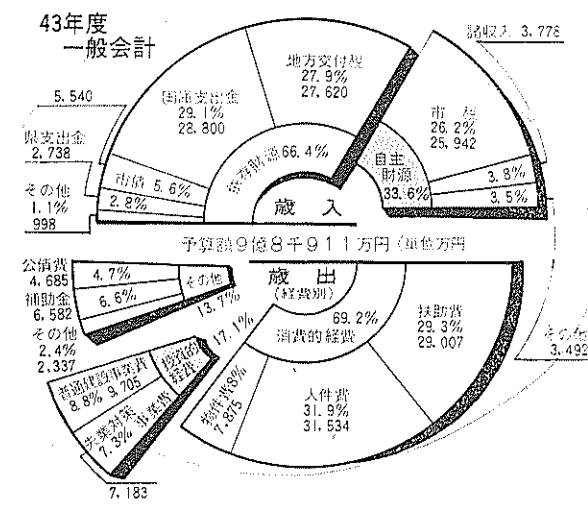
市道整備は七十パーセントで

四十三年度の南園市政の方向を決める当初定例会議が三月二十二日から二十五日まで十四日間にわたって開かれ、四十三年度一般会計当初予算九億八千九百一十七万七千円のほか議員、特別職の給与、報酬の引き上げのための関係条例の改正、市民交通傷害保障条例の設置などが決められました。

3月市議会定例会から

動脈硬化の市財政

型のもので、人件費や生活扶助費など義務的経費の割り合いも高くなり財政の硬化化が目立っています。こうした中で市道の整備は要望の出ている個所の約七十割を消化する計画だということです。



公害問題

領石川汚染について沢村(進)、猪野両議員が質問。

通学区制問題

猪野、浜田(健)、平田議員が質問。

都市計画問題

吉村議員が質問

文化財保護

北岡、岩崎両議員が質問

ところで議会開会のあとの本紙では各議員の質問に執行部答弁のおもなものを収録してきましたが、毎年のことながらことしの当初議会も、議員改選以来初の当初議会のせいもあるが、十八人という大量の議員が質問に立ち幅広い範囲にわたって質疑が続けられたため紙上収録はできません。また、広範囲にわたった質問も当初議会特有の雑花的なものも多く、一般的に低調な感じが強かったようです。そこで今号ではとくに重要なと思われる質問項目について執行部答弁を中心に紹介することにします。

承認された主な議案

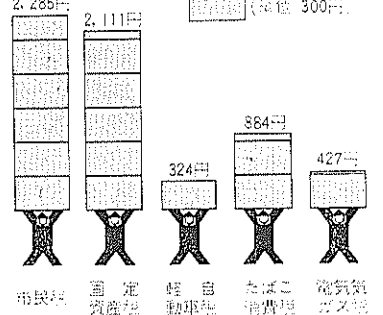
- 3月定例会議で可決された主なものは次のとおりです。
1. 43年度一般会計予算9億8千9百11万7千円。
2. 同国民健康保険特別会計予算直轄勘定68万7千円に事業勘定2億3千178万6千円。
3. 同上水道事業特別会計予算4千2百4万5千円。
4. 南園市議会議員の報酬費用弁償条例の一部改正。
5. 市長等の給与支給条例の一部改正。
6. 市立青年の家設置、管理条例の設置。
7. 市消防手数料条例。
8. 市民交通傷害保障条例。

七割は依存財源

ふくれあがる扶助と人件費

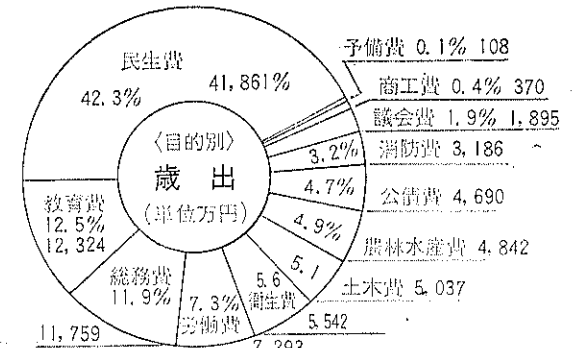
歳入

長が「管理は厳重にし、開覧は絶対許さないようにする」と答えた。小沢正澄議員が石灰石業者に対する鉱山税が軽減されると質問。徳橋助役 市内で年間四百六十六万七千二百の石灰石が産出さ



歳出

日現在の肩にかかる市税は、一人当たり六千三百一十円(鉱産徴収林取引税をのぞく)となっています。市民サービスのためにことし市が使う経費を目的別にみてみますと、消費的経費が六十九・二割と全体の大半にのぼり、建設事業に使用



する投資的経費は、十七・一割と二割りに満たない状況にあり、残りは公債費(借入れ金の返済金と利子)や、補助金などに使われています。ほぼ七割を占めています消費的経費のうちでも、人件費(特別職、各種委員、一般職の給与など)三億一千五百三十四万円が最高で三十割を越し、市税収入よりも二千二百万円ほど多く、二十九、三

このように支出面の増大とともに八千万といわれる潜在赤字をかかえて、これが解消などからみあった苦しい財政のなかにおいて、自主財源による新規事業などは、もとより期待することのできないことは、いつわりのないところといえます。そのため一般行政の合理化による経費の節減はもとより、高齢者(六十歳以上二十一名)の退職をすすめて人事管理と行政の効率化をはかるとともに、赤字の自主解消の方向づけをしなから必要限度の事業を遂行しようとしています。とくに、公共事業をできる限り財政の許るされる範囲内にとり入れ、おしすすめてゆく姿勢をしめしています。ところで市民の日常生活のうえで切り放すことのできないし尿処理場、チリ焼却場の用地購入と都築紡績会社の工場用地などの大きな課題をかかえています。健全財政への過程といえることもあって、消極的な骨格予算といえます。

空港問題

西村、島内、川村議員が立ち入り測量、整備計画の見直しなどを中心に質問。市長 空港整備計画については運輸省も具体的なものをもっていないようだ。わたしもまったく聞いていない。第一次地方空港整備五カ年計画からはずれているようで、ここ数年の間に拡張計画が実施されることはないだろう。立ち入り調査については昨年末に協力を要請されたがはっきりとことわってある。地元民の意思を無視して市長が独走はしない。

同和行政

吉村、竹田両議員が質問、村山厚生課長が同和対策長期計画を説明。壬申戸籍について二宮市民課

よみましよ・みましよ